

せたがやクラファン！チャレンジ 「世田谷の子どもたちへフラッグフットボールを 届けるプロジェクト」



「2028年ロサンゼルス五輪」の正式種目に決定！

アメリカンフットボールをもとに開発された 新しい「小学校体育向け教材」です。



タックルの代わりにフラッグ (旗)を使用します。

アメフトのタックルの代わりに、「腰につけたフラッグ」を取り合うことから名付けられた子供達でも安全に楽しめる新たな教材です。



「作戦図をつくる・選ぶ。」 頭と話し合いで進めるスポーツ。

子供たちが皆で「作戦図」を創作、その作戦の中からプレーごとに1つを選び、みんなで役割を分担して「作戦の成功」を目指す新しい種目です。



小学校授業で、今急速に広がり はじめています。

子供たちの体力だけでなく、**考える力やコミュニケーション力**も同時に育てる「最先端の体育」として大きな注目を集め、広がりをはじめました。

文部科学省が 学習指導要領に採択しました。

教材研究から異例のスピードで指導要領に掲載

2001年	筑波大学を中心に教材研究が本格的に開始 全国の研究指定校で授業実践、注目が集まる
2008年	学習指導要領（小学校体育編）に採用が決定
2011年	掲載された指導要領が全国で施行開始



《作戦図をつくる！》フラッグフットボールの教育価値

考える体育！

運動能力ではなく「作戦図」が勝敗を左右します。
そのため、子供たちみんなが夢中になって「話し合い」と「作戦づくり」を始めます。

運動が苦手な子が変わる！

運動が苦手だった子にも「作戦図」の中に必ず役割が登場します。そして運動が得意な子と一緒に大活躍するようになります。

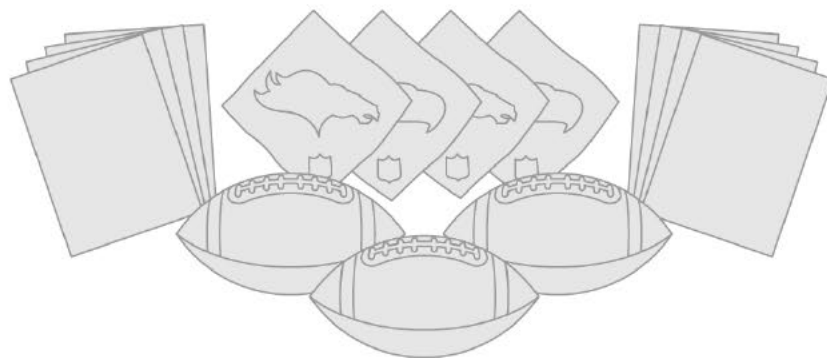
子供たちみんなが変わる！

チームの作戦を役割分担によって成功させるという体験は、授業後の友人関係も変え、クラスみんながスポーツを通して変わっていきます。

小学校現場ではどんなに良い体育であっても 広がらない「課題」が存在しています。

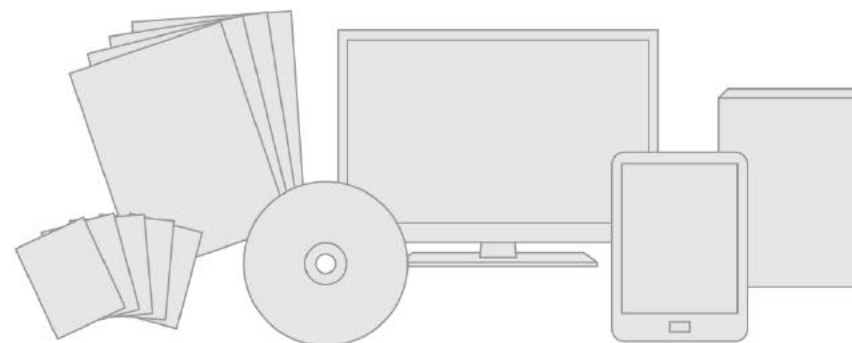
フラッグフットボール導入の2つの障壁

小学校は全く予算がなく用具等を揃えない。



小学校の体育の予算は年間「5万円～10万円」程度です。これは複数のボールや備品を買い替えるとすぐなくなる金額です。指導要領で推奨されても、新たに予算がかかる教育は広がらないという矛盾があります。

先生たちは新しい体育を教えることができない。



小学校の先生の65%は女性であり、体育は専門外の先生が大半です。また授業中、教科書もありません。そのような中で新たな体育を指導できるようになるためには、魅力ある補助教材の開発や提供が必要になります。

これまでに「6,000校」を越える小学校で 授業事例が生まれています。

子どもたちに支持された体育！

「体育が苦手だったけれど、初めて活躍できて本当にうれしかった！」「休み時間にもチームのみんなで沢山の作戦をつくっています！」など、男女問わず、運動が得意な子も苦手な子も皆が支持する体育として広がっています。



全国で「作戦コンクール」も実施

子供たちが授業でつくった「作戦」を応募する「作戦コンクール」も行っていました。子供たちが考えた「作戦図」の優秀さとアイデアを競う大会で、年間10,000点以上もの作戦が寄せられるまでに拡大してきた実績があります。



新聞・テレビでも取り上げられました！

コンクールの全国優勝校・準優勝校では現地の小学校で表彰式も開催してきました。その様子は地元の新聞やメディアでも取り上げられました。



読売新聞
(2015年3月13日付)



三重テレビ | ワイドニュース
2015年3月12日 (木)

全国の小学校への普及活動【2024年2学期の様子】

2024年度もサポーターングパートナーの皆様、
および一般財団法人日本宝くじ協会の教育助成も受け
日本全国の650校の小学校へ授業用の用具・教材を寄贈致しました。

2024.09.03

お知らせ

2024年度全国フラッグフットボールプレゼント助成校650校の
決定につきまして



2024年度の寄贈数

＜小学校パッケージプレゼント＋テキストの総応募学校数＞

応募総計1,376校

寄贈小学校数：650校

（内訳）

40人クラスパッケージ：450校

ハーフパッケージ（小規模校用）：200校

＜各教材寄贈数＞

スタートブック：1,950部

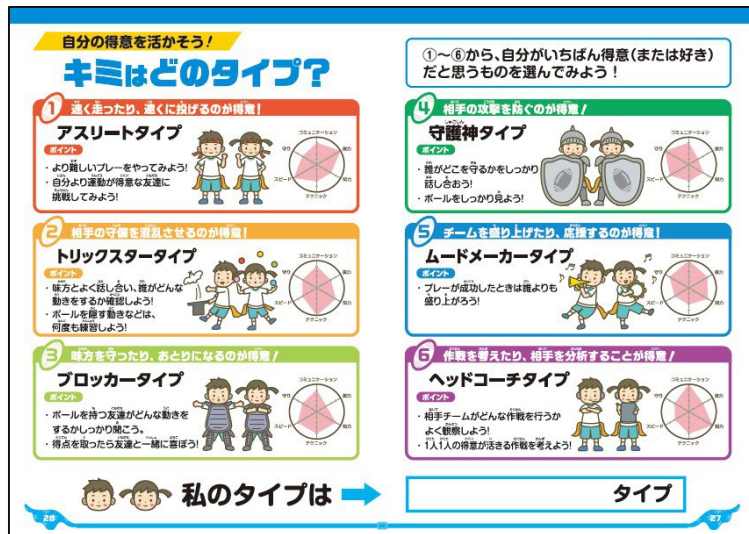
さくせんブック：100,000部



※フラッグ・ベルトの原材料費の高騰の影響もあり、
650校という規模ではありますが、
昨年に続き短期間の一次応募のみで全国多数の学校から応募を頂きました。

寄贈した先生方・子供たち向けの既存の教材群（指導要領対応）

該当の650校全ての学校にスタートブックを寄贈致しました。



日本全国の寄贈校から寄せられている声（2024年）

◎ フラッグフットを通してより良い人間関係作りや、今まで気付かなかったことも気付くようになったり、豊かな関係育むきっかけとなると考えます。（千葉県高洲第四小学校）

◎ チームの作戦を考えたり、それに基づいて練習を進めたり、すごく教材として面白いスポーツだと思います。また、競技として取り組んでいる子がいないので、みんなが初めてという同じステージからのスタートというのも良いです。（釧路市立湖畔小学校）

◎ 本校でも、運動が好きな子と嫌いな子、運動が得意な子と苦手な子といったように体育の授業の中で二極化が起きています。こんな現状を打破し、体を動かすことの楽しさやすばらしさを知ってもらうためにはフラッグフットボールが適切ではないかと考え、応募しました。（豊明市三崎小学校）

全国での普及活動

教員向け講習会や体験会など、全国の学校やイベント等での教育・普及活動が活発化しています。



直近3年 世田谷区立小学校寄贈実績

2022年 7校

世田谷区烏山北小学校
世田谷区立八幡小学校
世田谷区立山崎小学校
世田谷区立松原小学校
世田谷区立弦巻小学校
世田谷区立深沢小学校
世田谷区立山野小学校

2023年 1校

世田谷区立給田小学校

2024年 3校

世田谷区立弦巻小学校
世田谷区立砧南小学校
世田谷区立奥沢小学校



本プロジェクトの実施計画

世田谷区内小中学校**30校**に
フラッグフットボールの用具（ボール、フラッグ）、教材を寄贈します。

また、希望する学校**10校**には指導者を派遣し、
授業初期のサポートを行います。

寄付金を予定以上に獲得できれば、
寄贈・派遣する学校数を拡充します。

